

きれいな甲斐

No.42 APRIL 2008

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。

環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし

事務局●〒400-8501山梨県甲府市丸の内1丁目6-1山梨県循環型社会推進課内
TEL.055-223-1506 FAX.055-223-1507 〆junkan@pref.yamanashi.lg.jp
URL <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/junkan/60200266375.html>



古紙配合率100%再生紙を使用しています

発行責任者●広報専門部会長 神宮寺 聡

◆平成19年度環境パートナーシップやまなし実施事業◆

環境パートナーシップやまなしは、今年度も環境保全に関するさまざまな活動を展開してまいりました。

地球温暖化防止のための県民参加型環境保全事業

『サマーエコチャレンジ2007』実施結果

事業の内容

本団体会員（団体会員の構成員を含む）及び一般県民各世帯、事業所において、8月の日を含む1検針期間、参加者自身が設定した昨年同時期に比した削減目標を達成するため、節電に取り組んでいただきました。

実施結果

今年の夏は、梅雨明けが、平年より10日ほど遅くなり8月1日頃となりました。また、梅雨明け以降暑い日が続き、特に中旬には厳しい暑さとなり、猛暑日が継続的に観測され（最大継続日数は8日間）、1961年の観測史上3番目に多い12日間を記録しました。8月の平均気温は、27.7℃（甲府气象台）と平年より+0.1℃～+1.5℃で、昨年8月（27.0℃）に比べ、大変に厳しい中でのチャレンジとなりました。

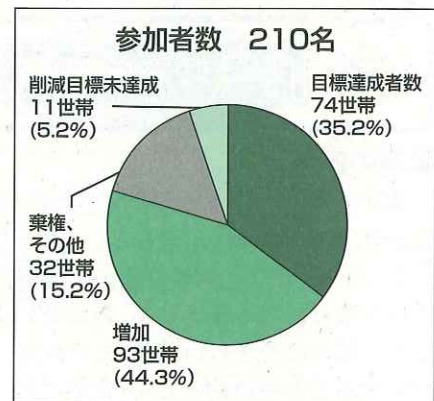
このような厳しい気象状況下ではありましたが、個人部門では85世帯（40%）（昨年188世帯：55%）で昨年より使用量が減り、うち74世帯（35%）（169世帯：49%）の方が削減目標を達成しました。

一方で、93世帯（43%）が昨年の使用量を下回ることができませんでした。

各参加世帯での取り組みとしては、テレビ・オーディオ類・パソコンなどの電化製品は、使用時以外はプラグを抜いて待機電力の削減に努めたり、部屋の明かりをこまめに消すなど、ちょっとした心がけと地道な努力によって、着実な削減に結びついているようです。また、エアコンの使用を控え、扇風機を活用したり、よしず・すだれの活用などの取り組みが多くみられました。さらに今年は、アサガオやヘチマのような、ツル性植物で作る、自然のカーテン＝「緑のカーテン」を活用した。というレポートが目につきました。部屋の中の布カーテンだけでなく、屋外で陽射しをさえぎることで建物の温度上昇を抑え、まるで天然のエアコンのよう！また、野菜を収穫できたり、とても楽しいカーテンなのです！

こういった取り組みは、がんばりすぎず、日常的な習慣にすることで、着実な電気の節約につながっていくものです。

事業所部門では、「クール ビズ」（本会では、夏のエコスタイル・キャンペーンを実施）により、軽装やエアコンの温度を28℃に設定することに加え、こちらも離席時のパソコンや照明の電源をこまめに切るなどの地道な取り組みが行われています。今回のチャレンジを機会に、省エネを“我慢”としてとらえるのではなく、“新しいライフスタイル”として今後も楽しみながら取り組みましょう。



【個人部門】

- ★参加世帯数：210世帯
- ★前年比減少世帯：85世帯
(うち目標達成世帯数：74)
- ★平均削減率：▲0.22%
- ★優良取組世帯：5世帯

(参考)世帯員別月間電気使用量平均(kwh/日)

| | | | | | |
|----|-------|----|-------|----|-------|
| 1人 | 6.67 | 4人 | 13.59 | 7人 | 16.93 |
| 2人 | 9.52 | 5人 | 12.90 | - | - |
| 3人 | 12.80 | 6人 | 17.20 | - | - |

【事業所部門】

- ★参加団体名：14事業所
- ★前年比減少事業所：9事業所(うち目標達成8事業所)
- ★平均削減率：4.80%

参加事業所

- ・ダイードリンコ(株)甲信支店
- ・生活協同組合コープやまなし本部
- ・生活協同組合コープやまなしいちのみやセンター
- ・山梨リコー(株)甲府事業所
- ・山梨リコー(株)富士吉田支店
- ・秋山土建(株)
- ・(株)オギノ本部
- ・都留市博物館「ミュージアム都留」
- ・生活協同組合コープやまなし甲府センター
- ・生活協同組合コープやまなし富士吉田センター
- ・山梨リコー(株)本社
- ・東京ガス(株)甲府支社
- ・東京電設サービス(株)山梨支社
- ・(株)オオキ

参加者の主な取り組み

(個人部門)

- ・家族でなるべく一部屋で過ごすよう心掛けた。
- ・お風呂の水を打水として利用した。
- ・待機電力を削減するため使用していない電気は元からコンセントを抜いた。
- ・エアコンの使用は温度設定を1~2℃上げ、扇風機を併用した。
- ・緑のカーテンを設置した。
- ・電気ポットや炊飯器の保温を切った。
- ・早寝早起きし、エアコンを控え、よしやすだれを使い自然の風を取り入れた。

(事業所部門)

- ・クールビズを実践し、冷房温度を28℃にした。
- ・「見えタロー」というツールを導入し、30分単位で使用電力量の確認ができるようにした。
- ・昼休みの事務所内の照明やパソコン等の消灯を徹底した。
- ・温水便座のOFF、空調温度をこまめに目視確認した。
- ・15時以降の未使用端末等の電源OFF、18時以降のエアコン・自販機の電源を切ったり、また、トイレのフタを常時するようになった。
- ・エコスタイルキャンペーンのポスターを掲示した。
- ・天井にファンを取り付けて、エアコンの設定温度を下げないようにした。



「夏のエコスタイルキャンペーン」実施結果

事業の内容

地球温暖化防止のための温室効果ガス削減に向けては、県民・事業者の「ライフスタイル、事業活動の変革」による取り組みの重要性が増しています。

このため、オフィス等の適正冷房徹底による省エネルギーの一層の推進を図り、個々の事業者が自主的に実践していた取り組みを集約して、蒸し暑い真夏でも「軽装では相手に失礼」といった考え方を、「夏の軽装は省エネにつながり環境にやさしい。軽装こそ良識」というものに変え、環境と共生する新しいビジネス文化、県民性を本県に根付かせることを目的として、従来のビジネスファッションの慣行・常識を見直し、夏季のさまざまなビジネスシーンでの軽装を呼びかけるため、22の事業所が本キャンペーンに参加しました。

○実施期間：平成19年7月1日～9月30日

○実施項目：ポスターを作成し、次の項目の実施を呼びかけました。

①適正冷房の基準

・事務所、会議室における適正冷房の実施(28℃) ・電車、バスなど公共的な場所における過冷房の抑制

②軽装の奨励

各団体や企業等において、職場における服装として信用と品位を損なわず、暑苦しさや不快感を感じさせない清潔感のある軽装を奨励する。

第22回県民の日記念行事「環境広場」への出展

平成19年11月10日（土）、11日（日）の2日間、小瀬スポーツ公園で開催された記念行事に参加し、恒例の環境意識の啓発を目的として、環境広場の5箇所ブースに環境関連クイズを設置し、全ての問題に解答した人に景品を差し上げました。

また、今年度は、子どもたちの環境への関心度を高めることを目的に、ごみ減量化の一環としてレジ袋削減に向けて取り組んできた「ノーレジ袋推進連絡協議会」が作成した「ノーレジ袋推進キャラクター『エコリー』」のぬりえコーナーを新たな企画として設置しました。

ぬりえの中に、「地球のためにできること」を書いてもらい、ブース前のボードに貼り出したところ、2日間で400人ものお子さんが一生懸命ぬりえに取り組んでくれました。

多くの方が環境広場を訪れ、ふるさと山梨の環境について考えていただくきっかけとなったことと思います。

また、この「県民の日」記念行事は、2日間で約10万人の来場者がある、県下最大のイベントで毎年多量のごみが排出されています。

環境パートナーシップやまなしでは、会場内で使用されていた使い捨て容器から、リユース容器の導入へ転換を図ることで、ごみの出ないエコイベントとなるよう、実行委員会に要請を行い、平成18年度からリユース容器が導入されました。平成19年度には、出展団体のリユース容器利用が原則導入となり、「県民の日」記念行事が、ごみの出ないエコイベントとなるよう継続してPRを実施しました。

その結果、昨年度出展団体のリユース容器利用率は、35.7%から68.4%にあがり、徐々に理解が得られています。



「リユース食器」に関するアンケート結果（食品提供団体）

※紙面の都合上、一部掲載としました。

1 今年度の県民の日記念行事でリユース食器を使用しましたか。

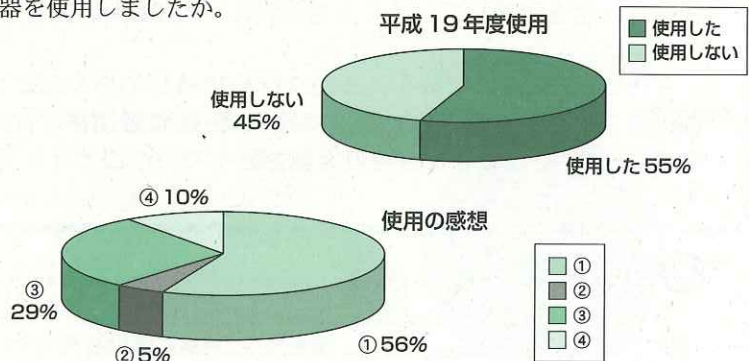
- ①使用した。
- ②使用しない。

2 今回使用してどのように思いましたか。

- ①使用してよかった。
- ②使用しない方がよかった。
- ③どちらともいえない。
- ④その他

3 使用して良かった理由（一部抜粋）

- ・ごみが出ないことが良い。
- ・環境にやさしい
- ・エコへの関心向上
- ・リユース食器を使用することによりごみの減量化に繋がるとともに、来場者に対し、環境の重要性を認識してもらうことができた。
- ・会場内にごみが増え見あたらなかった。また、来場者のリサイクル意識も高まっていると思われ、リユースに伴うデポジットに関しても理解が得られやすかった。
- ・環境に配慮したことが、来場者の県民にアピールできた。



☆環境にやさしいイベントを目指して☆ リユース食器のすすめ

※リユース食器をコーディネートしたNPO法人スペースふうは、甲府武蔵野シネマ5やヴァンフォーレ甲府ホームゲームなどのリユース食器使用をプロデュースしています。

■■■ノーレジ袋推進事業の展開■■■

循環型社会推進課

ごみ処理をはじめ地球温暖化への対応など、私たちを取り巻く環境問題は、日々の暮らしや社会経済活動の結果生じているものです。そして、この問題を解決していくためには、一人ひとりの日常生活、その根底にある価値観、社会経済活動の仕組みなどを環境に配慮したものに転換していくことが必要です。

現在、山梨県が推進している「ノーレジ袋推進事業」は、レジ袋の削減という身近な取り組みを通して、環境に配慮した行動へと転換していくために展開しているものです。

平成19年7月24日には、ノーレジ袋推進のための研修会を開催しました。研修会へは、県内の事業者、消費者団体、市町村担当者など約100名が出席し、活発な意見交換等が行われました。基調講演では、京都市レジ袋有料化推進懇談会座長である同志社大学の郡嶋教授から、京都市での取り組みや他国での有料化の状況などが紹介され、続いてのパネルディスカッションでは、県内の事業者、消費者団体、甲府市などの関係者によるレジ袋削減の活動状況が発表され、今後の取り組みについての意見交換を行いました。

研修会の開催によりノーレジ袋の推進を図る推進団体設立の気運が高まり、平成19年8月31日にレジ袋の削減方策等の調査・研究や意識啓発、普及を行う「山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会」が設立されました。この協議会は、事業者・消費者団体・商工団体・市町村など15者で構成し、次の事業を展開しています。

平成19年10月7日を「ノーレジ袋推進の日」として、県内約100店舗の店頭でキャンペーンを実施し、このうち10店舗では、約1200名を対象としたアンケート調査を行い、78%の方からレジ袋削減の方策として、有料化に賛成との回答を得ました。

また、ノーレジ袋推進キャラクター「エコリー」を使用してレジ袋削減に向けた普及啓発を行うとともに、今年1月から毎月ゼロの付く日(10、20、30日)を「ノーレジ袋の日」として、スーパーの店頭などでマイバッグの持参等と呼びかけています。

協議会の場では、他県の状況やアンケート結果などを基に、様々な観点から検討を行っていますが、平成20年2月1日の第5回の会議において、マイバッグ、マイバスケットの持参を呼びかけ、レジ袋の有料化を実施していくことを宣言し、横内山梨県知事へ報告しました。

今後は、レジ袋の削減を具体的な行動に移していくために、有料化を含めたレジ袋削減に関する事業者・消費者団体・行政との協定締結や、更なる普及啓発の実施を図っていくこととしています。



お知らせ

「きれいな甲斐」は送付方法を①郵送、②メール配信、③県ホームページよりダウンロードの3種類から選択できます。現在の送付方法から変更を希望される方は、事務局へご連絡ください。

環境パートナーシップやまなし事務局（県循環型社会推進課内）

TEL：055-223-1506/FAX：055-223-1507 E-mail：junkan@pref.yamanashi.lg.jp

投稿募集中

【会員紹介コーナー】

①スペースはA5判程度で、原稿と写真等を入れて構成してください。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所等）、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由です。④締め切りは特にありません。

【行事予定】

○団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等です。